

大谷学報 第五十三卷（昭和四十八年度）総目録

第一号

『歎異抄』の「大切ノ証文」について……………栗原 行信 (1)  
図書館における人文学的資料の役割……………荷葉 堅正 (13)

——バトラーの論文の意味するもの——

生活行動論……………河村 雷雨 (26)

——組織行動を中心として——

唱導源流小考……………安東 大隆 (39)

荻原雲来訳註「和訳称友俱答論疏一」(界品)の改訂試訳……………舟橋 一哉 (1)

第二号

最澄と空海……………赤松 俊秀 (1)

梵網經と阿含部梵網經についての試論……………白土 わか (14)

グレイとワーズワース……………松田 憲 (25)

——その詩的世界の特質について——

アメリカの婦人解放運動……………松村 尚子 (41)

安樂集に引用された所謂疑偽經典について……………大内 文雄 (56)  
 —特に惟無三昧經・淨度菩薩經を中心として—

### 第三号

金沢末利侍講あて教如上人書状について……………北西 弘 (1)  
 宗教批判の立脚点……………寺崎 峻輔 (17)

——フォイエルバッハの場合——

華嚴即非論の一側面……………鍵主 良敬 (23)  
 魚山叢書覚秀本について……………岩田 宗一 (37)

釈尊の悲化……………江上 淨信 (48)  
 —『大無量壽經』悲化段を中心として—

平安朝仏教説話集にみる觀音信仰……………石橋 義秀 (61)

### 第四号

善導と『涅槃經』……………藤原 幸章 (1)  
 『摧邪輪』の背景とその性格……………坂東 性純 (14)  
 クラペードの「行為の大法則」について……………太田 祐周 (29)  
 「つよい」ということ……………山田 知子 (42)  
 主体性と惡の問題……………堀尾 孟 (54)